

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラム当該科目の授業担当教員が学習管理システム(LMS)を通して学生の講義出席状況・課題の取組状況を把握している。その結果はデータサイエンスセンター会議で報告され、センター員全員で履修・修得状況を点検している。
学修成果	授業シラバスに各科目の到達目標を明示し、客観的かつ厳格な成績評価を行っている。また、本学教務課が実施している学生授業評価アンケートの分析を通して、当該科目に関する学生の理解度や教材・教授方法の適切性に関する学生の評価を測定している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業評価アンケートへの回答中、約6割の学生が授業内容を「おおむね理解できた」と答え、約3割の学生は「よく理解できた」と答えたため、内容の理解度は十分なレベルであると思われる。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	この授業に関連する分野について、約4割の学生が「機会があれば勉強したい」と答え、同じ割合で「さらに勉強したい」と答えており、「社会に出たら、この授業の内容が一番役に立つだろうと思った。」とのコメントもあったことから、推奨度が高い授業として認識されていると感じる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学科で必修となっているコンピュータ演習関連授業が対象となっているため、履修率は100%であるあり、今後も本プログラム該当科目を必修科目として実施していく。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムの修了者はまだ卒業していないため、進路・活躍状況、企業からの評価を把握できていない。本学卒業生に関する企業等からの評価は、キャリア支援課および研究室指導教員等を通じて情報収集しており、今後、本プログラム修了者についても状況把握を行う。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学の地球共生系データサイエンスプログラムは、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、本学ならではの各専門分野(獣医・畜産、臨床検査、食、環境)における課題解決に際して、データに基づいて適切な判断ができる人材の育成を目指している。これからの地域社会の発展においては、このような資質・能力を備えた人材が欠かせず、地域産業界のニーズに応えることのできるAI・データサイエンス人材の育成を目指し、今後、地元企業等とも連携し、教育プログラムの改善に努めていく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	令和5年度の当該科目の学習項目としては、「社会で活用されているデータ」、「データ・AIの利活用」、「データ・AI利活用における留意事項」、「データを扱う」である。この中で、本学の学生の関心が高いヘルスケアや動物行動などのデータの活用例を中心に、データサイエンス・AIが現在の社会の中でどのように扱われ、新しい社会作りにもどのように影響しているのかを、アクティブラーニングも絡めながら自分で調べ考えさせることで、データサイエンス・AIを学ぶ楽しさ・意義を理解してもらっている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	PCスキルを学ぶコンピュータ演習関連科目の中で本プログラムを扱うことで、PC操作が苦手という学生がそれを理由にデータサイエンス・AIの学習につまづかないようにしている。また、非常勤講師も含めて多くの教員で授業を担当することにより、きめ細やかな指導ができるようにしている。授業中の課題は、学生一人一人がそれぞれ興味を持っている事例を中心に調べて考えるものにより、受動的ではなく能動的に取り組めるようにデザインしている。「さらにデータサイエンスを学んでみたい」という意欲を抱いた学生には、他大学などが公開している動画教材も紹介し、「この地球共生系データサイエンスプログラムのもっと先」を自分自身で探っていけるように導いている。

② 自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.azabu-u.ac.jp/about/program/datascience.html>